

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 4 区分

【発行日】平成31年1月17日(2019.1.17)

【公開番号】特開2018-38128(P2018-38128A)

【公開日】平成30年3月8日(2018.3.8)

【年通号数】公開・登録公報2018-009

【出願番号】特願2016-167616(P2016-167616)

【国際特許分類】

H 0 2 G 3/16 (2006.01)

B 6 0 R 16/02 (2006.01)

H 0 5 K 7/20 (2006.01)

H 0 5 K 7/06 (2006.01)

【F I】

H 0 2 G 3/16

B 6 0 R 16/02 6 1 0 D

H 0 5 K 7/20 N

H 0 5 K 7/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月28日(2018.11.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

第 1 負極バスバー 8 0 D は、図 3 に示すように、細長い板状のバスバー本体 8 1 D と、バスバー本体 8 1 D の一端からバスバー本体 8 1 D に対して垂直に延びる接続部 8 2 D とを備えている。バスバー本体 8 1 D は、図 7 に示すように、プリチャージリレー 5 0 A の一方のバスバー接点 5 8 に当接し、ボルト B により固定されている。接続部 8 2 D は、図 4 に示すように、基板 4 1 を貫通して第 1 負極コネクタ 4 8 B に配設され、負極接続バスバー 8 5 にボルト B により固定されている。負極接続バスバー 8 5 は、電源の負極に接続される。また、負極接続バスバー 8 5 には、電流センサ 8 6 が取り付けられている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 9】

ヒートシンク 1 1 3 は、熱伝導性に優れる金属により構成された放熱部材である。このヒートシンク 1 1 3 は、図 1 6 に示すように、枠体 1 1 1 の一方の開口部 1 1 2 A を塞いで配置される閉塞面 1 1 4 と、この閉塞面 1 1 4 から突出する上げ底部 1 1 5 とを有している。上げ底部 1 1 5 は、閉塞面 1 1 4 において、外周縁に隣接する一部分を除く部分に配置された、扁平な矩形の凸部である。上げ底部 1 1 5 が、枠体 1 1 1 の一方の開口部 1 1 2 A の内部にほぼ緊密に嵌合し、閉塞面 1 1 4 において、上げ底部 1 1 5 の周囲の部分が枠体 1 1 1 に当接することで、開口部 1 1 2 A が塞がれている。枠体 1 1 1 と閉塞面 1 1 4 との隙間は、図 1 5 に示すように、コーキング材 1 1 6 によってシールされている。枠体 1 1 1 と閉塞面 1 1 4 とで囲まれた、冷却ケース 1 1 0 の内部空間には、実施形態 1 と同様に、液冷媒 R が貯留されており、液冷媒 R は、上げ底部 1 1 5 に接触している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

枠体 111 において、ヒートシンク 113 とは反対側の開口部 112 B は、実施形態 1 と同様に、回路構成体 30 によって塞がれている。詳細には図示しないが、実施形態 1 と同様に、5 つのバスバー 80 A、80 B、80 C、80 D、80 E の接続部 82 A、82 C、82 D、82 E を除く部分、プリチャージ抵抗器 70、および、3 つのリレー 50 A、50 B、50 C のバスバー接点 58 が液冷媒 R に浸かっている。